

栃木初のアンテナショップがオープン

東京スカイツリー®を 観光の起爆剤に

「とちまるショップ」の運営事業代表、松本謙さん。「東京からのほどよい近さを武器にしたい」と意気込む

「東京からのほどよい近さを武器にしたい」

5月22日、東京スカイツリーの開業に合わせ、隣接する商業施設「東京ソラマチ」がオープンする。300を超える店舗のなかには、栃木県が初めて開くアンテナショップ「とちまるショップ」も。世界一の電波塔をめぐるにぎわいを、どのように地元の観光とつなげるか。東武沿線の自治体は新たな課題に取り組んでいる。

新たな挑戦

スカイツリーの屋上に誕生する「東京ソラマチ」は、ファッションや雑貨、スイーツ、レストランなど全312店で構成され、商業施設として都内最大級の規模を誇る。コンセプトは「新・下町流」。ランドマークタワーに向き、観望と準備が進められている。

「東京ソラマチ」に「とちまるショップ」

アンテナショップは、都内に出店するのが「とちまるショップ」だ。栃木県にとつては初のアンテナショップだけに、関係者の期待は大きい。同ショップには県産の食材を中心に、工芸品など1000〜1300アイテムが並ぶ予定。簡易の調理場を設け、ジェラートの販売も行う。「とちまるショップ」の運営事業代表、松本謙（ゆづる）さん。栃木県宇都宮市は、「まったく新しい商業施設のなかで、どこまで、道の



魅力を発信

栃木方面へ向かう東武の特急「スーパースーパー」は、最寄り駅「とちぎょうスカイツリー駅」も停車駅となった。立地をフル活用できれば、観光客は確実に増やせる。もっとも、アンテナショップといっても、単なる観光客向けのみやけ物店になるつもりはないようだ。

「せっかく東京ソラマチのなかにあるのですから、地元黒田区の方々が毎日利用できるように、さまざまな品やサービスも考えたい。近所にお住まいの皆さんにも、気軽に来ていただける存在になれたらうれしいですね」

栃木の名物は「とちおとめ」に代表されるいちごや宇都宮のギョーザにとちまらな。その魅力を観光客、そして周辺の住民にどう訴えていくのか。ツリーの開業とともに新たな挑戦が始まる。

栃木らしさを前面に！県産の食材を中心に工芸品など1200〜1300アイテム

5.22